

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	56人	算数	56人	理科	56人
第5学年	国語	58人	算数	58人	理科	58人

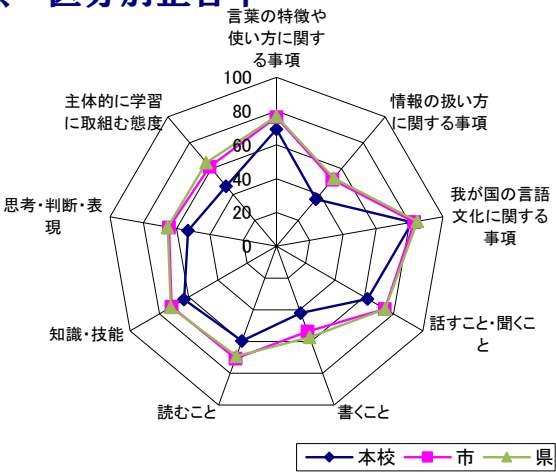
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.3	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	36.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	81.5	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	62.3	74.1	74.2
	書くこと	42.0	53.7	57.2
	読むこと	59.6	70.7	69.2
観点	知識・技能	63.1	71.6	72.3
	思考・判断・表現	53.1	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	46.3	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

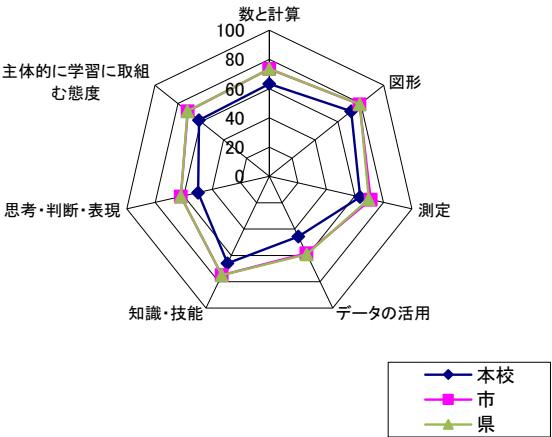
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字のへんやつくりについての設問の平均正答率は81.5%で、県とほぼ同じである。 ●ローマ字の表記についての設問の平均正答率は県よりもやや下回っている。 ●国語辞典の使い方については、平均正答率は51.9%で県の平均正答率を71.5%を19ポイント下回っている。	・ローマ字の学習では、ローマ字に慣れるよう、1人1台端末を活用し、ローマ字入力の機会を増やしていく。 ・わからない単語や新出単語は辞書で意味調べをすることを習慣付け、辞書の使い方を理解し、語彙力を高められるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○「目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする」設問の平均正答率は、県の平均正答率を5ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にする」設問の平均正答率は20.4%と県の平均正答率より14ポイント下回っている。	・問題解決型の課題など、児童自ら情報を集める活動を取り入れ、集めた材料を比較したり分類したりする機会を増やす。
我が国の言語文化にに関する事項	○「漢字を書く」「漢字を読む」については、県の平均正答率とほぼ同じである。	・漢字の読み書きに関しては、家庭学習などでも繰り返し練習する機会を増やし、定着を図る。 ・児童に馴染みのない単語は覚えることが難しいため、辞書で意味を調べるなどして漢字を書いたり読んだりする力が確実に身に付くようにする。
話すこと・聞くこと	●領域全体の平均正答率は62.3%で、県・市の平均正答率よりも12ポイント下回っている。	・理由を挙げながら筋道を立てて話す力を伸ばしたい。簡単なメモを用い、筋道を立てて論理的に話す場を設けるなど、指導を行っていく。 ・話し合ったことや友達の発表をよく聞いて、まとめる力を伸ばしていく。インタビューなどを通して、聞いた内容を自分の言葉でまとめ、大事なポイントを押さえて書く指導を行っていく。
書くこと	●「指定された長さで文を書く」「段落の役割を理解し、2段落構成で文を書く」設問について、県の平均正答率を23ポイント下回っている。	・日々の指導の中で日記や作文など、自分の言いたいことを文章にする活動を多く取り入れ、書く機会を増やしていく。内容だけではなく文字数や段落構成などを指定し正しく書けているかという観点を重視していく。
読むこと	○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有する」設問の平均正答率は83.3%で、県の平均正答率とほぼ同じである。 ●説明文の「文の中から中心となる語や文を見つけ、要約する」設問の平均正答率は37.0%となっており、県の平均正答率を15ポイント下回っている。	・物語文の読み取りでは、叙述を基に、登場人物の気持ちや場面の様子を読むことができるように指導していく。 ・説明文の読み取りでは、要約する力を育てるために接続語や文のキーワードとなる言葉に注目させながら、段落ごとに中心文を抜き出す活動を取り入れるなどして、文章を要約する力が確実に身に付くようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.3	73.5	73.6
	図形	71.6	79.0	79.1
	測定	63.7	71.1	69.8
	データの活用	45.7	58.4	59.2
観点	知識・技能	66.0	75.0	75.0
	思考・判断・表現	50.0	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	61.6	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

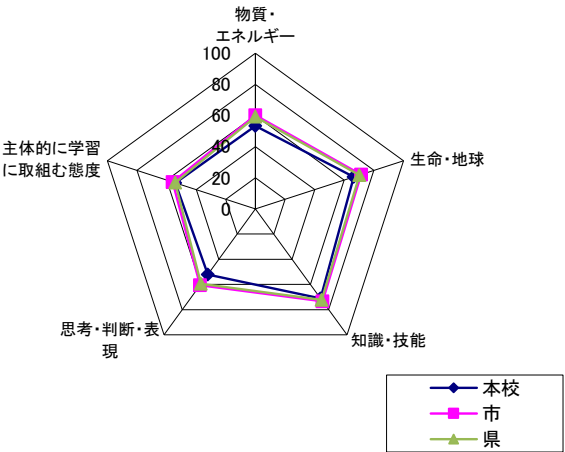
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「繰り上がりのあるたし算」の設問の平均正答率は79.6%で、県とほぼ同じである。 ●領域全体の平均正答率は63.3%で、県や市の平均正答率を10ポイント下回っている。	・ジャストスマイル、朝の学習の時間や家庭学習を活用して、繰り返し問題に取り組む機会を確保するとともに、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。
図形	○「正三角形を作図する」設問の平均正答率は94.4%で、県の平均正答率を6.6ポイント上回っている。作図についての理解や技能が定着していると考えられる。 ●「円の半径についての理解を問う」設問の平均正答率は59.3%で、県の平均正答率を16ポイント下回っている。	・朝の学習や家庭学習において、様々な図形の性質の理解を図る課題や、それらを活用して考える課題に取り組みませ、図形についての基礎力・応用力を伸ばしていく。
測定	○「はかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求める」設問の平均正答率は63%で、県の平均正答率を5ポイント上回っている。 ●領域全体の平均正答率は63.7%で、県・市の平均正答率をやや下回っている。特に、「時ごとと時間」の設問の正答率は55.6%で、県の平均正答率を16ポイント下回っている。	・「時刻と時間」については、日常生活と結び付けて考えられるように随時話題にしたり、朝の学習の時間などに、他の内容も含めて、系統的に復習する機会を設ける。
データの活用	●領域全体の平均正答率は45.7%で、県・市の平均正答率を13ポイント下回っている。特に、「棒グラフに着目して理由を説明する」設問の平均正答率は40.7%で県の平均正答率を20ポイント下回っている。	・棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に分かったことや考えたことを文章に表す学習を継続して実施していく。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.3	60.2	59.2
	生命・地球	66.4	71.3	70.3
観点	知識・技能	71.1	73.4	72.3
	思考・判断・表現	52.1	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	54.1	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「じしゃくのせいしつ」の「つくものとつかないもの」についての設問の平均正答率は64.8%で、県の平均正答率を10ポイント上回っている。 ●「物の重さ」についての平均正答率は36.4%で、県の平均正答率を7.6ポイント下回っている。特に、「体積」という言葉を使ってペットボトルを使う理由を説明する問題については、県の平均正答率を大きく下回っている。 ●「音のせいしつ」についての平均正答率は50%で、県の平均正答率を10ポイント下回っている。	・実験して分かったことを生活の中で具体的な場面に置き換えて考える問題の正答率が低い。実験の際には、予想・実験・結果の過程で、考える時間を十分に確保することで、深い理解ができるようにする。 ・日頃から理由を説明したり書いたりする学習活動を多く取り入れるようにする。
生命・地球	○「身近なしぜんのかんさつ」の「観察時に気を付けること」についての平均正答率は90.7%で、県の平均正答率を16.8ポイント上回っている。 ●「太陽と地面のようす」についての平均正答率は37.6%で、県の平均正答率を11ポイント下回っている。 ●「植物の育ち方」のグラフの読み取りについての平均正答率は66.7%で、県の平均正答率を8ポイント下回っている。	・月や星は時間や日にちによって見える位置が変わることや、月に満ち欠けがあることについて、星座早見板を活用して実際に観測できるようにする。 ・植物を育てる活動を取り入れたり、観察する際に色や形、特徴など注目する視点を与えたりすることで、観察の技能の向上と学習内容の定着を図るようにする。 ・日頃から身近な生き物や天体について話題にしたり資料を掲示したりすることで、興味・関心を高められるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題の量はちょうどよい」「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を上回っている。今後も、家庭学習の充実が図れるよう、内容を吟味していきたい。

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を上回っている。児童の好奇心を大切にする授業を工夫していきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を上回っている。

○「毎日、朝食を食べている」「自分には、よいところがあると思う」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を上回っている。今後も、家庭と連携を図りながら心身ともに健やかに成長できるよう支援していきたい。

○「自分は家族の大切な一員だと思う」「学習は、しょう来のために大切だと思う」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を上回っている。前向きに考える児童が多いので、褒めたり励ましたりして一人一人のよさを伸ばしていきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を下回っている。効果的な自主学習のやり方についてのアドバイスをしたり、工夫が見られる自主学習ノートを掲示したりして啓発を図る。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を下回っている。普段の授業の中で、課題解決的な学習を多く取り入れ、解決の糸口や方法を教えていく。

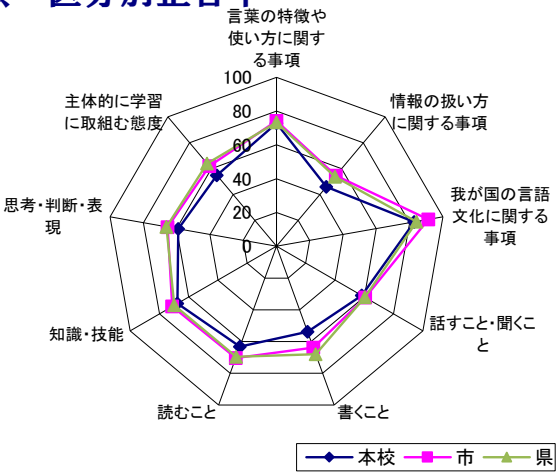
●「先生は学習のことについてほめてくれる」「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を下回っている。声掛けや称賛を心がけながら、今まで以上に一人一人、ていねいに細やかな指導を続けていきたい。

●「早ね、早おきを心がけている」の質問に肯定的な回答をした割合が、県や市を下回っている。規則正しい生活習慣が定着できるよう、学級懇談やお便り等を活用しながら家庭との連携を図っていく。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.8	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	46.0	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	82.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	58.3	60.6	60.4
	書くこと	53.9	63.8	68.0
	読むこと	63.2	70.4	69.6
観点	知識・技能	67.7	71.3	69.9
	思考・判断・表現	59.1	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	54.8	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

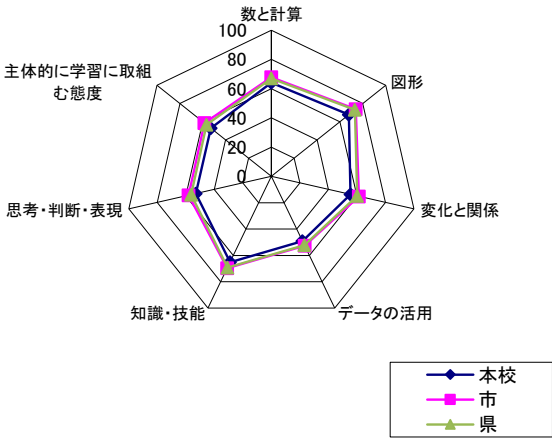
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「漢字を読む」設問の平均正答率は90%前後で、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○「漢字を書く」設問の平均正答率は、どの漢字の書き取りについても県の平均正答率を10ポイント以上、上回っている。 ●「漢字を書く」設問で、類型外誤答の割合が高いものがあり、送りがないなどで誤りがあったと考えられる。	・4年生までの漢字の読みや書きの定着が図られている。今後は筆順や字形、送りがない漢字の意味などをより正確に理解できるように、新出漢字の学習方法や演習の工夫を図れるようにする。 ・連絡帳を書くときなど、授業以外でも日頃から漢字を使うよう意識づける。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える」設問の平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ●「漢字辞典の使い方を理解している」や「情報と情報との関係について理解し、理由や事例を挙げながら話している」についての設問では、県の平均正答率をそれぞれ12ポイント程度下回っている。	・漢字辞典の使い方について、索引の使い方と漢字の部首が正しく理解されずに誤答する傾向が見られたため、漢字を学習する際の手段として漢字辞典を活用する場を設けるようにする。 ・情報の内容を項目ごとに整理したり、根拠となる理由を考えさせたりすることで、情報と情報の関係を理解し、理由を明らかにして話すことができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○前後の文章に合わせたことわざを選択する設問の平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。	・辞典や一人1台端末を用いてことわざの意味を調べたり、それらを使って文章を書いたりするなどして、身近に取り入れる機会を設ける。
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る設問の平均正答率は、県や市の平均正答率とほぼ同じである。 ○「話し手の工夫を捉えている」と「意見の相違点に着目して考えをまとめている」についての設問の平均正答率は、それぞれ2ポイント程度、県や市の平均正答率を上回っている。 ●話し合いについての設問の平均正答率は、県や市の平均正答率を下回っている。 ●「理由や事例などを挙げながら話している」設問についての平均正答率は32.4%で、県の平均正答率を12.1ポイント下回っている。	・聞くときは話の中心に気を付けてメモを取ることや互いの意見を比べながら聞くことなど、聞くときのポイントを押さえた学習態度が意識されている。 ・最初に自分が伝えたいことを明確にしたり、内容に合わせて理由や事例を挙げたりすると分かりやすく伝わるなど、文章を書くときのポイントは意識されているので、話すときはそれを用いて目的に沿った文章構成を考えるよう指導する。 ・話し合い活動では聞くことと話すことのそれぞれのポイントを明確にして、両面に着目して取り組むようにさせる。
書くこと	○「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている」についての設問の平均正答率は69.0%でその条件に当てはまらない解答の平均12.1%を大きく上回っている。 ●指定された行数や構成、読み取ったことを書く設問では、県の平均正答率を15ポイント下回っている。	・理由や事例を挙げて分かりやすく文章を書くことはある程度意識されている。さらに、文章を短くまとめ、段落ごとに分け、読み取ったことを踏まえるなど文章構成の見通しを立てるよう指導する。 ・感想文や日記など書く機会を設け、考えを整理して書くことを意識づけられるようにする。 ・授業の振り返りの時間を活用して、時間内に自分の考えを簡潔にまとめる習慣を身に付けさせる。
読むこと	○説明文の「段落相互の関係を捉える」や「読んで感じたことや考えたことを共有している」についての設問の平均正答率は県の平均正答率とほぼ同じである。 ●物語の内容を読み取ることについては、全体的に県や市の平均正答率を下回っている。 ●説明文の「叙述を基に文章の内容を捉えている」についての設問の平均正答率は65.5%で、県の平均正答率を11.8ポイント下回っている。	・物語の登場人物の心情について叙述に基づいて読み取ることは身に付いているが、登場人物の心情の変化について、場面の移り変わりと結びつけて想像することが不十分である。読み取った心情が場面ごとにどのように変化したが着目させることで、心情の変化を捉えられるようにする。 ・説明文の読み取りでは、段落相互の関係を捉えることはできたが、一つの段落というまとまりの中で文章の内容を捉えることが不十分である。指定されたキーワードの前後の文章に着目させることで、文章を正確に読むことができるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.1	67.8	67.0
	図形	67.9	73.9	73.1
	変化と関係	55.5	61.4	60.2
	データの活用	49.1	52.7	52.1
観点	知識・技能	65.2	69.7	69.2
	思考・判断・表現	53.0	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	53.0	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

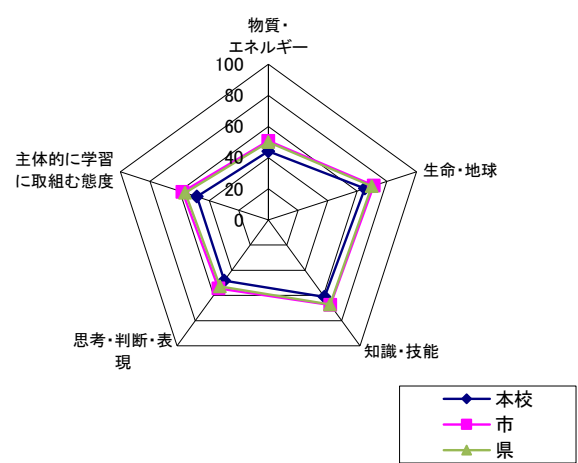
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○概数に対応する数の範囲の理解についての設問の平均正答率は70.7%で、県の平均正答率を13.1ポイント上回っている。 ●十進位取り記数法の理解についての平均正答率は62.1%で県の平均正答率を16.7ポイント下回っている。 ●四則の交じった式の計算順序の理解についての設問の平均正答率は48.3%で県の正答率を13.9ポイント下回っている。	・十進位取り記数法については、小数の学習において、10倍、100倍、1/10、1/100などの大きさの数を、形式的な小数点移動の操作として扱うだけでなく、数の大きさや数の構成について丁寧に指導を進める。 ・整数の乗法及び除法に関して成り立つ関係や法則の理解が不十分だったので、小数で計算の法則を学習していく際に、既習事項を確認しながら学習を進めることで、定着を図れるようにする。
図形	○長方形の面積を求める問題や、四角形の辺の長さの性質を理解する設問の平均正答率は、県の平均正答率をやや上回っている。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取る設問の正答率は60.3%で、県の平均正答率を20.5ポイント下回っている。 ●ひし形の作図についての平均正答率は63.8%で、県の平均正答率を18.5ポイント下回っている。	・四角形を構成する平行や垂直といった位置関係は比較的理解できているので、図形を構成する要素や要素間の関係に着目して学習を進め、合同な図形や多角形についての理解を深められるようにする。 ・合同な図形や正多角形の学習の際、コンパスや分度器の使い方を確かめながら学習を進めることで、作図方法の理解と作図の技能の向上を図れるようにする。
変化と関係	○数量の関係を割合を使って説明する設問の正答率は65.5%で、県の正答率58.9%を6.6ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問の正答率は32.4%で、県の正答率を4.5ポイント下回っている。 ●簡単な場合についての割合を問う設問の正答率は58.6%で、県の正答率を9.5ポイント下回っている。	・比例の学習では、伴って変わる二つの数量について、具体的な場面を設定したり、乗法の場面を想起させたりすることで、二つの数量の関係を表や式に表せるようにする。 ・割合の学習では、4年で学習した簡単な場合の割合について確かめることで、小数で表される場合についても理解できるようにする。
データの活用	○折れ線グラフと表の二次元表を読み取る設問の平均正答率は48.3%で、県の平均正答率とほぼ同じである。 ●二つの折れ線グラフを読み取り、グラフから分かることを言葉や数で説明する設問の平均正答率は24.1%で、県の平均正答率を7.2ポイント下回っている。	・円グラフや棒グラフの単元では、データの収集や分類整理、表やグラフの整理などの学習を進めていく。社会や総合的な学習の時間など、児童の実態に合わせて他教科との関連を図り、様々なグラフについての内容を理解できるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	44.1	50.8	50.0
	生命・地球	65.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	61.2	67.6	67.2
	思考・判断・表現	48.3	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	48.3	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○物の体積と力の「得られる結果を推測する」設問の平均正答率は、県の平均正答率を5ポイント上回っている。 ●物質・エネルギー領域全体の平均正答率は、県の平均正答率を6ポイント下回っている。 ●「電気のはたらき」に関する設問では、県の平均正答率を10ポイント下回っている。	・問題を繰り返し解き、基本的な知識の定着を図るようにする。 ・実験結果をまとめたり考察したりする時間を十分に設け、思考力の向上を図るとともに、内容の理解を深められるようにする。 ・乾電池の数と回路を流れる電流の大きさ、乾電池の向きとモーターの回る向きなど、条件を整理して結果をまとめさせることで、学習内容の定着を図る。
生命・地球	○「自然の中の水」に関する設問についての平均正答率は86.2%で、県の平均正答率を6ポイント上回っている。 ○「動物のからだのつくりと運動」についての設問の正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ●生命・地球の領域全体の平均正答率は、県の平均正答率を5ポイント下回っている。 ●「月と星」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を10ポイント程度下回っている。 ●「雨水のゆくえと地面のようす」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を10ポイント下回っている。	・「月と星」の満月の見える方位や1日の動き方など、単元の内容に応じて映像教材を用いることで、内容を分かりやすく捉えられるようにする。 ・自分の考えを記述することのできていない児童が多い。分かったことや気付いたことを自分の言葉で書く機会を多く設定するとともに、書き出しの文章や用いる語句を提示することで、自分の考えを記述できるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、「自分の考えを発表する機会が与えられている」「クラスの友達と話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答の割合は、県や市の平均を大きく上回っている。今後も話し合い活動の充実と学力向上が図れるよう、指導方法の工夫、改善を図っていく。

○「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答は、県や市の平均を上回っている。今後も児童の頑張りを称賛し、基本的な学習態度、学習習慣の定着を図っていく。

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合は、県や市の割合を上回っている。自主学习が少しずつ習慣化してきている。今後もしっかりと定着できるよう、家庭と連携を図っていく。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で授業の復習をしている」の肯定的回答は県や市の割合を大きく下回っている。今後、家庭学習、自主学习の在り方を見直していく。

●「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、平日、土日のどちらの学習時間についても、県や市の割合と比べて短くなっている。児童の家庭での学習意欲を引き出すことができるよう、1日の学習時間の目標を立てさせたり児童の頑張りを称賛したりするなど、実態に応じた指導、支援の在り方を工夫していく。

●「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問では、30分以上読書すると答えた割合は県や市の割合を上回っているものの、全くないと答えた児童も県や市の割合を大きく上回っており、読書量の個人差が大きい。図書室や読書記録の活用の仕方など、児童への啓発の在り方を見直していく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答は県や市の割合を大きく下回っている。図書資料や1人1台のタブレット端末を生かした学習の在り方を見直していく。

●「ふだん(平日)、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか」の質問では、県や市の割合と比べ、ゲームに費やす時間の長い児童の割合が大きくなっている。児童への指導を工夫するとともに、家庭との連携を図れるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追求する言語活動の推進	児童が主体的に取り組める課題を設定し、単元や本時のねらい達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。	「授業で発表する機会が与えられている」への肯定的回答は4、5年生のどちらも県・市の平均を上回っているものの、「話し合いに進んで参加している」や「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」等については、学年間のばらつきが大きく、県や市の平均を下回るものもある。
基本的な学習内容の定着を図る指導の充実と家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	算数では、単元に応じて少人数学習や習熟度別学習、TT体制で授業を進めている。また、教員間で児童の情報を共有し、個々に応じた指導の工夫、改善を図っている。 「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた学習時間の目安や内容を提示している。	4、5年生ともに、基本的な学習内容が十分に身につけているとは言えない。今後も授業における指導体制等を単元ごとに検討するとともに、指導内容を工夫していく。 「学校の宿題はやりたくなる量だ」や「宿題は自分のためになっている」の肯定的回答は4、5年生ともに県・市の平均を上回っているが、家庭学習に取り組む時間は、平日、土日ともに県・市よりも短めである。
1人1台端末を用いたICTを活用した授業	月曜日と木曜日の朝の学習の時間にタブレット端末を活用したAIドリルを活用し、学力向上を図っている。 タブレット端末についての研修を進め、授業での活用を図っている。	4、5年生ともに、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」が県・市の平均を大きく下回っている。また、「授業の内容はよくわかりますか」や「次の教科の学習は好きですか」等については、学年間、教科間のばらつきが大きく、県・市の平均を下回っているものもある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
話し合い活動を効果的に取り入れた授業の実践	児童の学習意欲の向上と話し合い活動の推進	児童の学習意欲を引き出せるよう、課題設定や授業の展開を工夫するとともに、話し合い活動を全教科、領域で日常的に行い、友達から学ぶよさを実感できるようにする。
問題を読み取ったり自分の考えを記述したりする力の向上	読書と文章を書く活動の推進	読書記録を活用して読書への啓発を図る。自主学习や日記などで日常的に文章を書く活動に慣れさせるとともに、授業で分かったことや自分の考えを明確に書けるよう、継続的に指導・支援する。